

第4期若者未来会議

活動報告書

令和7年3月

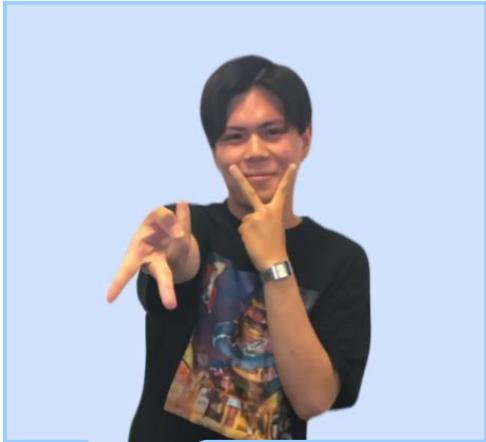
小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略若者未来会議

1、若者未来会議について

小川町では、人口減少の緩やかな抑制や将来にわたる地域活性化を目指す目的のもと、平成27年度には「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、期間満了に伴い令和元年度には第2期総合戦略をそれぞれ策定いたしました。第2期総合戦略の策定にあたり、次代の担い手となる若者世代から多様な意見を伺うとともに、その知恵や柔軟な発想を可能な限り反映していきたいとの思いから、「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略若者未来会議」を令和元年度に設置しています。

若者未来会議とは、身近な課題を同年代の仲間と一緒に考え、解決に向けて動いていく組織です。第4期(令和6年度)では、1年間の活動の中で、「小川町を愛するきっかけの創出」を目標に、手に取って味わうことのできる魅力発信媒体として、若者目線でその魅力をお届けする小川町のプロモーションブック『おがわの魅力お届けBOOK』の創刊号作成に取り組んできました。

2、メンバー



【リーダー、自然班班長】
大学2年生/
竹内 心吾(たけうち しんご)



【自然班】
大学4年生/
浅見 祐子(あさみ ゆうこ)



【自然班】
高校2年生/
根岸 晴人(ねぎし はると)



【自然班】
高校1年生/
内山 祐大(うちやま ゆうだい)



【グルメ班班長】
大学2年生/
柳瀬 望琉(やなせ もちる)



【グルメ班】
社会人/
渡辺 祥晶(わたなべ よしあき)



【グルメ班】
高校2年生/
鈴木 美結(すずき みゆ)



【歴史班班長】
大学2年生/
工藤 楓(くどう かえで)



【歴史班】
大学院修士2年生/
星野 祐輝(ほしの ゆうき)



【歴史班】
高校1年生/
大久根 遼(おおくね りょう)

3、開催内容

～一覧～

日付	内容
6/16(日)	会議＋フィールドワーク①
7/20(土)	会議＋フィールドワーク②
8/17(土)	会議＋フィールドワーク③、自然班打合せ
8/18(日)	自然班取材
8/27(火)	グルメ班打合せ①
8/28(水)	グルメ班打合せ②
9/1(日)	グルメ班取材①
9/10(木)	グルメ班取材②
9/24(火)	歴史班打合せ①
9/28(土)	グルメ班取材③
10/14(月)	歴史班取材
11/12(火)	歴史班打合せ②
11/14(木)	歴史班打合せ③
3/14(金)	会議

～会議～



小川町で生まれ育った、大学のゼミで小川町に関わった、小川町の高校に通っているなど、様々なバックグラウンドを持ったメンバーが集まりました。小川町の現状や資源について学びながら、アイスブレイクをしてお互いの距離を縮めていきました。

『おがわの魅力お届け BOOK』で取り上げる内容について、メンバーそれぞれが案を持ち寄り、小川町の魅力とは何かを改めて考えました。皆の良い所を集めつつ、アイデアをなるべく削ぎ落さない形で企画を練っていきました。



出された案は全て、小川町への「好き！」が溢れていたので、それを前面に出すことにしました。「メンバーが厳選した小川町の『推し』を紹介」、「『自然』『グルメ』『歴史』をテーマに」という方向性で本を作っていました。

～フィールドワーク～



まずは先輩である第3期若者未来会議が作った「おがわマスターになる！～星夢ちゃんからの挑戦状～」の謎解き冊子を参考に出かけました(エシカル、観光案内所むすびめ、和紙体験学習センター、田中家長屋、ヒキギンコウ、晴雲酒造、三代目清水屋など)。

その他にも多くの見所を訪ね、小川町への理解を深めていきました(有機野菜食堂わらしべ、帝松、旧下里分校など)。



スタッフの方などに、「応援してるよ！」「頑張ってね！」といった温かい声をいただき、期待に応えられるよう益々頑張ろうと思いました。このフィールドワークからも、『おがわの魅力お届けBOOK』に對して多くの着想を得ることができました。

～自然班～



まずは地図などを参考にしながら、自然溢れるスポットを拾い上げていきました。

様々なスポットを訪れてみて、山の上からの雄大な景色、木漏れ日が差すおしゃれな清流などを体感しました。



壮大な景色を写真に収めたり、日の光の変化を楽しんだりしながら、誰でも自然を満喫できる、小川町の山と川の魅力を表現していきました。



～グルメ班～



小川町には定食からスイーツまで、人々を楽しませる様々な飲食店があります。その中で、メンバーがお気に入りのお店をピックアップしました。

実際にお店に行き、料理をじっくり味わいました。食べてみてわかったその美味しさ、感じしたことなどを紹介しました。



お店の方へのインタビューも行いました。料理へのこだわりやおすすめメニューなど、たくさん情報をお聞きすることができました。

～歴史班～



歴史的な魅力とは何かと探索している中で、松尾芭蕉の句碑を見つけました。

調べてみると小川町には8つも句碑が点在していることがわかり、全てのスポットに訪れました。



なぜここに句碑があるのか、どのような意味が込められているのかについて調べつつ、現代の魅力と併せて紹介しました。新しい視点で味わうことのできるものとなりました。

4、『おがわの魅力お届け BOOK』

～#若者が選ぶ、私の「推し」～

～#小川町沼にハマってみませんか？～

若者世代であるメンバーが小川町の中で、自分たちの推しに関する情報をお届けすることで、小川町を愛するきっかけを創出していくというコンセプトで作成しました。その中でも特に魅力を感じた「自然」「グルメ」「歴史」に焦点を当て、メンバーがときめくスポットを厳選しました。そして語り切れない想いはコラムとしてまとめました。

「小川町への『好き！』がたくさん詰まっていますので、ぜひこの本を読んでときめいて、今度はあなたの推しを探してみてください。」



5、メンバーコメント

竹内 心吾

1年間活動した感想

約一年間の小川町若者未来会議の活動を通じて、地域資源の魅力を発信するという力を養うことができたと自負しています。私は以前より大学で「観光を通じたまちづくり」について研究したいと考えていました。この研究を進めるにあたって地域資源の魅力を発信するという行為が重要になってきます。小川町の魅力を発信するという趣旨でこのお話をいただいたときに、この力を養うことができるのでと期待に胸を膨らませ当会議に参加しました。

私が担当した「天空のガードレール」は、壮大な景色をどのようにしたら伝わるのだろうかと悩みました。そこで私は、壮大な景色を思い切り見てもらおうと考え、天空のガードレールの景色を大きく掲載しました。写真も天空感を出すために地上を映さないようにしました。また、本冊子に掲載されている地図の作成では、冊子の雰囲気にあった見やすい地図を作るのに試行錯誤をしました。地図の作成は大学の授業で行ったことがありますが、デザインなども意識した地図を作成するのは初めてのことであったため、色使いなど様々な観光雑誌の地図を参考にしました。

住みよい町にするアイデア

小川町を住みやすい町にするアイデアとして、和紙と自然を融合したアートプロジェクトがあったらどうかと考えました。私は、今回の活動を通じて小川町には「和紙」と「自然」という資源があると知りました。この2つの資源を融合させ、1つの資源とすれば小川町ならではの独自性が生まれ、地域住民には町への更なる愛着と来訪者には小川町に対する関心を持たせることができます。

アートプロジェクトの具体的な例として、楢川沿いや仙元山などを中心に和紙アートの展示を行うというものがあります。芸術家などに和紙を用いたアートの制作、展示を依頼すると同時に小川町の和紙職人と連携し、地域住民や来訪者も気軽に参加できるワークショップを開催します。ワークショップでは、和紙の製作体験のほか和紙を用いた作品制作の教室を開講します。子供でも作れるレベルの手軽な作品から本格的な作品など、レベルごとにいくつかの教室を開講することで幅広い集客が見込めます。これらの作品は、ただ街中に展示するのではなく、楢川や仙元山など川や山に溶け込むような展示方法を模索し、自然と和紙を融合した一つのアートとして展示します。そうすることで「和紙」と「自然」の2つの資源が融合し、小川町ならではの資源が生まれるのではないかと考えました。このプロジェクトを通じて町が更に活性化し、より住みやすい町になると良いと考えました。

浅見 祐子

1年間活動した感想

若者未来会議の活動を通して、これまで気づかなかった小川町の良さを見たり、初めて小川町に来る人にどんな魅力を感じてほしいかを追求したりと、もともと住んでいる者と新しく訪れた者の2つの視点から地元愛をより深めることができました。最初は、地元・小川町の良さを再確認するところから始め、「自然」「山」「川」など漠然としたものしか思いつきませんでした。しかし、取材で楓川や館川ダムを訪れ、陽の光の変化を楽しんだり、スマホから離れてリラックスしたりと、なぜ小川町の自然が好きなのかについて深めることができました。また、町外から来て一緒に活動してくださったメンバーさんから、小川町の地形や人柄の良さなど、新たな気づきを得ることができました。若者らしい素敵なハンドブックを作ってくださった森下さん、取材に連れて行ってくださった高野さん森下さんをはじめとする職員の方々に、感謝の思いで一杯です。一人でも多くの若者がこのブックを手に取り、小川町に興味を持ってくれると嬉しいです。

住みよい町にするアイデア

今回のハンドブック作成を通して、自然への没入感をより体験しやすくすると、若者も訪れやすくなるのではないかと思いました。実現性は低いかも知れませんが、「自然の中に佇むカフェ」を提案いたします。

取材の中で、楓川を辿って森の中を歩いていると、スマホを見る時間が減り、デジタルデトックスできました。しかし、ゆっくり座って自然を楽しむことができず、わざわざ町外から来てくださる方を想定すると、疲れも溜まり、記憶に残りづらいのではないかと思いました。そこで、自然の中にカフェを作り、座って飲み物を飲みながらゆっくり自然の変化を楽しむことができたら、よりリラックスできますし、思い出にもなりそうだと感じます。また、地元の方々も普段はわざわざ触れることがない自然に没入し、地元で非日常感を味わうことができれば、日々の癒しになるのではないかと思います。よって、町内外の若者が非日常を感じてリラックスできる場所「自然の中に佇むカフェ」を提案いたします。

根岸 晴人

1年間活動した感想

この活動を通して、自分の知らなかった小川町を知ることができて、より一層小川町のことが好きになりました。

私は小川町に住んでいましたが、天空のガードレールや、下里の川のことは知りませんでした。近くまで行くことはあっても、その存在に気がつきませんでした。また、松尾芭蕉の句碑やハンバーガーの店など、名前は知っていたけどあまり詳しく知る機会がなかったものもあり、インターネットにないような狭い情報を知り、伝えることの大切さを感じました。また、冊子をつくるに当たって、色々な人が関わっていることを実感しました。地図をつくる人やインタビューをする人、資料を調べて説明をつくる人など、様々な人との協力によって小川町を色々な方面から紹介することができたと思います。このような活動に参加させていただき、本当にありがとうございました。

私は取り上げる場所に行って文を書いただけですが、一緒に行った人たちがとても優しく、楽しく活動することができました。今回を通して小川町の奥行きを感じることができました。

住みよい町にするアイデア

フィールドワークに参加したときに色々な場所を巡りましたが、一つ一つの距離が離れていて、暑い中歩くのは疲れました。また、自然班で取材をしたときも車で移動しました。小川町の町内を巡回するバスは本数がかなり少ないといため、ちょうどいい時間で利用することは難しいです。

その解決策として町で自転車の貸し出しを行い、サイクリングを推奨していくことで、各スポットへのアクセスを簡単にできるのではないかと考えました。自転車で移動することにより、町の自然を肌で感じることができます。

このアイデアを実現するために、私ができることは、まず自分が自転車で回って体験し、それを伝えること、町の細かい見所を知らない人に小川町について知ってもらうことなどです。たくさんの見所があっても、それを知る人が少ないとあまり意味がありません。小川町の魅力に関する情報は、ネットでもうまく見つからないこともあります。そのため、知っている人が周りに伝えていくというのはとても大切だと思います。

サイクリングの推奨によって小川町の魅力が再発見されれば、小川町に住む意味が生まれ、住みたいと思える町になるのではないかと思います。

内山 祐大

1年間活動した感想

若者未来会議における活動を通して小川町に何があるのか、そしてそれにどのような魅力があるのかを知れた。最初は、小川町は何も無いド田舎でつまらないところだと思っていたが、今回の活動を通して小川町の色々な魅力的な風景、隠れた名所、名物を知れた。また、調べる際にチームの人と協力して調べられたのが楽しかった。自分は、風景探索は都合がつかず行けなかつたけど、みなさんが調べてくれた写真がとてもいいもので記事を作る際にとても助かり、ありがとうございました。

本活動で私は小川町の色々な面を知ることができました。本活動がなければ私の中での小川町は恐らくなんにもないド田舎のつまらない場所という感想で止まっていたと思います。ですが、本活動を行えたことにより、私はこの街がいろんな魅力が眠り、潜んでいる可能性に溢れた町だな、と思いました。

本活動での経験を活かし、私は小川高校でのおがわ学に活かし、小川町の魅力を多方面に広めたいと思います

住みよい町にするアイデア

町内を循環するバスをつくる。

正確には、小川町の色々なところから小川町駅、または東武竹沢駅に接続できるバスを作るのはどうなのかと思いました。友人曰く、小川町にはみどりが丘地区を循環するもの以外は、外部に行くバスしかないそうで、場所によってはバスがないという話を聞きました。小川町駅前ロータリーの敷地では、多くなったバスをいれるのは結構無理があると思いますが、新たな種別を作り、小川町中にできる限りバスが行き渡るようにするはどうかと思いました。また、小川町はかなり広く、小川町の様々な観光地、名所に行くには歩きや借り自転車だけでは限界があると感じ、それを解消するためにも町内にバスをもっと行き渡らせるべきなのではと思いました。

こちらに関しては、高校生の私ではできることはほとんどありませんが、会社に直接進言できればいいのかな…と思ったりしました。

柳瀬 望琉

1年間活動した感想

「おがわの魅力お届け BOOK」の作成を通して、小川町の魅力ある場所をメンバーの皆さんと話し合いながら見つけていくのがとてもおもしろかったです。私は小川町で暮らしているわけではないですが、小川町に住んでいたり普段小川町で過ごしたりしている方々と話すことで、知らなかった場所に出会うことができて、小川町の素敵なところ・好きなところが私の中で増えていきました。また、実際のインタビューを通して、小川町で働く方が小川町を選んだ理由や OGAWAN 野菜へのこだわりをお聞きしました。そのような小川町への思いを知り、それを伝えられるような冊子を作成して、もっと多くの人に届けたいと感じました。今回私は 1 店舗のみにインタビューしましたが、今後の若者未来会議や自身の活動を通して、より多くの方に小川町への思いをお聞きしたいです。最後に、1 年間の若者未来会議の活動を通して、小川町で暮らす人や小川町を大切に思う人が行動して、発信していくことが大切なのではないかと考えました。小川町のたくさんの魅力を個人が考えるものにとどめず、こうして形にして発信していくことで、より多くの人に小川町の魅力を伝えていけるのだと思います。「おがわの魅力お届け BOOK」を通して、より多くの方が小川町の魅力に気づき、小川町を好きになってくれることを願っています。

住みよい町にするアイデア

私は、小川町を住みよい町にするには、小川町に住む方々が「小川町に住んでいてよかったです、これからも住み続けたい」と思えることが大切だと考えています。そのため、小川町の魅力を小川町外の人にも知ってもらい、共有していくことが必要ではないでしょうか。小川町には、今回紹介した自然や食、歴史のようにたくさんの魅力があります。そして、それを魅力に感じている人や大切に思っている人もたくさんいるのだと、これまでの活動でわかりました。しかし、それらをひとりひとりの想いとしてとどめたままでは伝わらずに終わってしまいます。そこで、そのような魅力を形にして、発信していく場を設けることは、小川町の魅力をより多くの人に知ってもらうために必要なことだと考えています。そして、それをきっかけに小川町への思いに共感して、魅力を理解している人が町を訪れることで、町民の皆さんの小川町に対する誇りや愛着が一層強くなっていくのだと思います。若者未来会議や「おがわの魅力お届け BOOK」のように、小川町に携わる方々が発信できる場所は、いくつあっても良いのではないかと考えます。

渡辺 祥晶

1年間活動した感想

若者未来会議の活動を通じて、小川町内には様々なお店や資源や名産品があるということを知ることができ、それまでよりも視野が広くなった気がします。

特に、インタビューさせていただきました「強い女」さんは、店名に込められた意味や、いただきましたカレーの見た目の美しさやスパイスの効いた重厚な味わいがとても印象に残っています。

個人的には全体を通して発見の多い楽しい活動だったのですが、強いて心残りがあるとしましたら、メンバーみんなで集まって何かをするという機会が意外と少なかったので、その点は（進行の都合上仕方がなかったのだとは思いますが）少しだけ物足りなかったかもしれません。ですがとても充実した時間を過ごすことができたので良かったです。

他のメンバーの皆さん、活動を通じて関わりました町内の方々、そして事務局の皆さんには大変感謝しております。本当にありがとうございました

住みよい町にするアイデア

① 若者未来会議での活動を経て、小川町には様々な資源があることを知りました。その中には「楮（こうぞ）」という和紙の原料になっている植物を使った食の発信もあります。

急激に流行るとその分反動が大きいので、地道に流行させていく方針で行きつつも、町の飲食店（個人店）で楮を使ったメニューを出して宣伝効果を狙うのはいかがでしょうか。

【私ができること】楮で作られたそのメニューを実際に食べて、知り合いに感想とともに推します！

② ラジュモハンさんのインタビュー記事を見て閃いたのですが、日本生まれ層だけではなく、海外からの来日客や移住者の方をターゲットにしたサービスや販売もある程度は拡げてみてはどうでしょうか。たとえば、町の案内の看板をマルチリンガルな仕様にしてみる（某コンビニみたいに英語だけでなく中国語なども併記する）、採算が取れるかは分かりませんがイスラム教の方にも町の食事に慣れ親しんでもらえることを狙ってハラールな名産品や料理を少し展開してみるなど、いかがでしょうか。

【私ができること】とりあえず勉強不足なので来日客あるあるを調べてみます。

鈴木 美結

1年間活動した感想

町おこしに参加して、多くのことを学び、感じることが出来ました。

最初は、自分が毎日通っている小川町を知りたいという漠然とした思いと、何か新しいことに挑戦したいという好奇心から参加を決めました。

やっていくに連れて、もっと知りたい、もっと色んなものを食べたいと思うようになりました。普段関わらない人と一緒に、協力することができ、考え方のシェアが広がりました。

また、価値観を尊重し、理解し合うことの大切さを学びました。

コミュニケーションを取る事で、たくさんの意見や考え方ができると改めて学びました。

町おこしへの参加は、地域を活性化させるだけでなく、私自身の成長にも繋がる貴重な経験が出来ました。これからも、積極的にいろんな活動に参加し、地域のために貢献していきたいと考えています。そして、これまでの経験を活かし、より良い町おこしを実現するために、積極的に提案し、行動していきたいです。また、生活や学校の中でこの経験を活かしていきたいです。

住みよい町にするアイデア

小川町の空き家の数や場所を把握して、住みやすい場所からリノベーションをしていったり、すぐに住む人を探すのではなく、お試し期間で住んでもらって、継続的に住むか決めてもらうという取り組み。その期間の中で小川町のパンフレットを渡して小川町の良いところを知ってもらう。

小川町で1ヶ月に1回のペースで(老若男女が楽しめる)イベントを開き、街の人達だけにお店を開いてもらうだけではなく、高校生や街の外の人にも来てもらって、街の推進だけでなく地域の仲なども深めていくという取り組み。

町民の声や小川町駅を使う学生などに意見を聞き、そこから何が足りないのか、何が必要なのかをグラフにして解決策を考えることが出来ることだと思った。例えば、イベントなどに参加してくれた方にインタビューしたり、ネットにアンケートを貼ったりして意見を集める。

小川町では、有機農業が盛んなので、生の野菜を売るだけではなく、漬物にしたり、干して野菜チップスや野菜の成分を使って布染めや野菜のハンコなどで楽しむことが出来ると思った。また、子どもたちに野菜に興味を持ってもらう。

1年間活動した感想

活動当初は小川町について全く知らず、「若者未来会議という面白そうな活動をしている」という興味本位から参加をしましたが、想定以上に実りのある時間を過ごせました。

私は歴史班のリーダーとして活動させていただき、特徴的な小川町に点在している句碑についてまとめ上げました。よく調べていくと時代背景とともに何故そこに句碑を建造したのかが分かり、他と遜色ない何気なかった町の地形から小川町の歴史を感じられる歴史資料のように感じられるようになりました。小川町にとっての価値あるものに昇華できたらよいと考えています。

今回は時間などの都合上取り上げられなかつたが、「蔵」「和紙」についても機会があれば取り上げて魅力発信ができればよいと思います。

この一年間すばらしい活動に参加できたことは、私個人にとっても小川町にとってもとてもよい機会になったと思います。また、次期若者未来会議を開催するにあたって改善点として大まかな年間スケジュールの作成、共有を行うとよりスムーズに行動に移せると思います。

改めて、活動に関わった方々にはとても感謝しています。一年間ありがとうございました。

住みよい町にするアイデア

1 移動について

句碑を巡る際には車を使用しましたが、全て巡るのにある程度の時間を移動に費やしました。今回の若者未来会議では様々なスポットをオススメとして紹介していますが、徒歩ではかなり大変だと思います。そのため住む際に全体的に乗り物がないと移動が大変に感じました。

以上のことから、小川町が住みよい町になるには、第一に移動方法の充実化が必要だと考えます。具体的な解決策としては、採算の都合上バスの本数を増やすなどはあまり適さないと思うので、電動自転車の貸し出し数、貸出箇所を増やした方が良いと思います。

2 交流機会の増加

定期的な交流会を開催することを推奨します。今回の若者未来会議には小川町に深い関わりのある人でも、たくさんの新しい発見を見つけていることが見受けられました。そのため、地域住民の交流会を開催し、オススメスポットを紹介しあうと、町民の町理解度が高まり住みやすい町になると思います。

現在の私は、これらのアイデアを直接解決することは不可能ですが、この機会を改善の一歩として、町役場の方々に提案させていただきたいと思います。

大久根 遼

1年間活動した感想

この1年間の活動を通じて、小川町についてより深く知ることができた。

私は小川町の近くに住んでいるため、もともと身近な場所だと感じていたが、実際には知らない魅力や観光地、産業、歴史が数多くあることに気づいた。このような学びが、小川高校での総合的探究活動「おがわ学」や、参加のきっかけとなったグローバルメディア研究部の活動にも活かせると感じている。

また、取材では歴史を担当し、小川町に点在する句碑について調べた。一見すると目立たない句碑も多かったが、その背景を知ることで新たな視点が得られ、風景としても魅力的に感じる場面があった。句に込められた想いや歴史を学ぶことで、より深く小川町の文化を理解できたと感じている。

そして、若者未来会議という活動を知るとともに、できれば部活でこの活動を取材したいと思い、小川町の観光や活動について興味が湧いた。さらに、小川町の魅力をもっと発信するために、積極的に情報を調べたいと思った。

住みよい町にするアイデア

地元産の有機農産物を活かしたカフェや直売所を（駅から少し遠いので）、駅前などアクセスがいい場所に増やし、地域ブランドを確立することで、観光客だけでなく住民にとっても魅力的なまちになる。

そのためにも地域の店舗を活用することで、地域経済を支えて産業の活性化に貢献する。

さらに、小川町の魅力を発信するために、SNSを活用しておすすめの観光スポットやお店を紹介するのも良い。特に若い世代が発信力を活かして外部の人々に町の良さを知ってもらうことで、新たな交流や観光の促進につながる。

地域の歴史や文化を学べるツアーやワークショップを開催し、町の魅力を再発見する機会を提供できると、より小川町の良さが再認識できる。

この点において、今回の活動である若者未来会議における観光パンフレットの作成は、取材の工程も含めて街の良さを発見し、歴史や文化を知れる良い機会であったので、本活動をより大規模に宣伝、拡散するか、より観光メインでの企画をすることで街の観光や産業に興味を持つ人が増える。

（宿泊を含めたボリュームの小さいパンフレットを、各自の小川町トリップを元に作成するツアーなどをこの活動とは別で企画してもいいかも）

また、若者未来会議の活動などを広めるためにInstagramやXのアカウントを作り、経過報告やおすすめ観光スポット、活動の様子などを随時発信することで注目を集められることが期待できる。（取材時の写真とかがいい感じの雰囲気）